

ある木曜日のほんの少しの物語

ねごよう

第一幕

舞台上にはベンチが二台、横に並んで客席を向けて並べてある。小さな公園の片隅にどこにでもあるようなベンチである。時間は午前中の朝9時半くらい。天気は晴れでも曇りでも良いが雨ではない。

天城京一郎(あまぎまよしいちろう)(26歳)が客から見て左側のベンチに座っている。スーツを着て黒いバッグを隣に置いており、憂鬱な表情を見せている。

結城萌愛(ゆうきもえ)(24)が客から見て右側のベンチに座っている。今どきのファッションである。何も言わずに集中してスマホをいじっている。

天城 (空を見ている)……………

萌愛 (スマホをいじっている)……………

天城 (ため息をひとつつく)……………

萌愛 (スマホにがっしりと集中している)

天城 (ふと萌愛の方に目をやる)

萌愛 (さらに眉間にしわを寄せてスマホをいじっている)

天城 (萌愛を見ながら少し微笑む)

萌愛 (何かに気づきチラッと天城を見て) なんスか？

天城 いやあ、すごいなあと思ひまして . . .

萌愛 なんか悪いッスか？

天城 いやいや、全然そういう事じゃないんですよ。なんか、うらやましいなあと思って . . .

萌愛 コレ？そんな最新のじゃナイんすけど。

天城 あ、スマホの方じゃなくて、それに集中している . . . お姉さんが。

萌愛 お姉さんって、アタシ？

天城 はい

萌愛 お姉さんってひさびさに言われたわ。

天城 そうですか。すみません。(頭を下げる)

萌愛 イエ。(ぺこりと下げる)

萌愛はスマホに戻る。

天城は天を見ると、鳥が飛んでいる。

天城 あ・・・あれは、鳩かな？

萌愛 ……

天城 ねえ？

萌愛 (スマホに集中)

天城 あれって、鳩ですよね？ (少し大きい声で)ねえ？ (さらに大きい声で)ネエ！

萌愛 あー！ うるさいなあ！ なんなんスカおっさん？ アタシはアンタみたいにくたびれたリーマンと

話したくなんかないん德斯けど！ 一人で鳩でもスズメでもなんでも眺めてりゃあいんじゃないの？

天城 ……すいません。

萌愛 (急にお客様対応のように)こちらこそ、失礼な言葉を使ってしましまして、誠に申し訳ありませんでした。

天城 ？

萌愛 (引き続き)どうぞ、ご自由に、お手に取って空を眺めていてください。

天城 は？ ハア…

萌愛 それでは失礼させていただきます。

萌愛、スマホに戻る。

天城、まだ驚いている。

萌愛 ……仕事は？

天城 は？

萌愛 だから、お兄さん仕事は？ こんな平日にこんな公園のベンチに座っているスーツ着て座っている人なんていないよ。仕事どうしたの？

天城 平日だからって公園に会社員がいないとは限らないでしょう？ 工作中……ほら、外回りとかで休憩しているかもしれないし。

萌愛 2時間も？ ずっとそこに座っていたよね。それに、普通仕事中なら会社から連絡がないかとかって何回かケイタイ出してチェックしたりするはずだけど、2時間の間、ケイタイ見たりとかもしていなかったよね？
実はスマホの電源切って、会社からの連絡は全部でないようにしているんじゃないの？

天城 ……鋭いね

萌愛 真実は、いつもひとつ！ マアマ、人を観察するのは嫌いじゃないもんで。

天城 ……て言うと、お姉さん、仕事は、接客業じゃないの？

萌愛 ピンポン。なんの接客かは内緒だけど。

天城 あの喋り方からすると、携帯ショップの店員さんとか？ ほら、「そちら新商品なんですよ。どうぞご自由に手に取ってお試しください」とか言ってそうだし。

萌愛 ……ブー。不正解。

天城 え？ じゃあ正解は？

萌愛 正解は……CMのあと。(またスマホに集中する)

天城 ……CMは？

萌愛 (まだスマホに集中)

天城 ねえ？ お姉さん？ CMってもう終わりました？ 答えが気になるんですけど！

萌愛 ま・だ。

天城 (待つが)……あの……もういいんじゃないですか？

萌愛 ア、お腹すいた。

天城 は？

萌愛 マック食べたい。

天城 マックですか？

萌愛 お兄さんおごって。

天城 エ？

萌愛 こんな若くてかわいいコがこんなさえないリーマンの話し相手になってあげたんだから、マックぐらい奢ったってバチ当たらないでしょ？ いいじゃん。

天城 しかし・・・

萌愛 しかもリスも無いよ。ネ？ 行こ行こ、駅前のマック。(天城の腕を抱える)

天城 そんなお金も・・・

萌愛 だあいじょうぶ。そんな、ビッグマックのセットとか頼まないから。せいぜいダブルチーズのセットぐらい。

天城 ダブルチーズとビッグマックがどう違うのか・・・

萌愛 全然違うよ。いいから、行こう行こう。

萌愛が天城を引っ張る形で、下手に去っていく二人。

暗転。

明転。

もといた場所に天城と萌愛が座っている。

天城 さ・・・

萌愛 うん？

天城 さ・・・さ・・・サ・・・

萌愛 うん？ ウン？ ううん？

天城 (大声で)サイドメニューってなんだあ!?(↓ここ言い方いろいろ工夫)

萌愛 あー・・・アレ？

天城 確かにダブルチーズバーガーセットは500円だった。ビッグマックセットは650円。

だがしかあし！ サイドメニューで1000円のチキンと1000円のパイを頼んで700円！
高くなってる！

萌愛 だってしょうがないじゃない。ご一緒にこちらのサイドメニューはいかがですか？ってあんな
笑顔で言われちゃったら、お兄さん頼むでしょう？

天城 頼んだのは君で、僕じゃない！

萌愛 あ、そうだったっけ？ マいいわ。おいしかったから。じゃごちそう様。

天城 待てえー

萌愛 待ちま、せん。じゃあねえ。

萌愛、上手に去る。

天城
クソー！
(下手に去る)

暗転

第二幕

翌週の木曜日。同じ時刻。

天城が下手のベンチに座っている。

上手から萌愛が入ってきて、

萌愛 (ア、あいつまたいる?という表情)

天城 ああどうも。

萌愛 ども。

天城 ……また逢いましたね。

萌愛 チース。

天城 この前も、同じ木曜日でしたね。だから……一週間ぶり。

萌愛 アア、占い外れた。

天城 エ？ 占い？

萌愛 「今日は南の方角に行くとは会いあり」って言うから来たのに、これが会いいかヨ・・・

天城 偶然ですネ。僕も占いで「先週と同じところに行くとは会いがあるかもしれません」って言われたんですヨ。

萌愛 ウソ？ 占いて、サイト？

天城 あ、そうです。

萌愛 どこ？

天城 エ？

萌愛 どのサイト？

天城 あ、アア・・・「幸せの池」ってサイトです。

萌愛 ウソ？ アタシも。「幸せの池」ってこれでしょ？（スマホを見せる）

天城 そうですそうデス！

萌愛 ウソー！ たまたま？

天城 ……そうみたいですネ。

萌愛 エ？ じゃあ、先生は？

天城 先生？

萌愛 ホラ、たくさんいる先生の中から、一人専属で選べるでしょ？ あれ誰にしているの？

天城 ああ。あれは……十文字先生。

萌愛 十文字ひかる？

天城 そうです。

萌愛 アタシも十文字先生なの！ あの先生イイよね？ ホラ、いつも占いしてもらったら最後の言葉が書いてあるじゃん？ あれすっごい好きなの！

天城 あ、アレだ。「全ては……」

二人 「あなたの優しさが運命を導いてくれます。だから周囲の人に思いやりを持ってください。

私もあなたを見守っていますよ」

萌愛 いいよねー、十文字。優しさに満ちていて。

天城 いいですねえ。

萌愛 ねえ？

天城 はい。

萌愛 (微笑んで天城を見る)

天城 (微笑みかえす)

萌愛 (さらに微笑む)

天城 (微笑みかえす)

萌愛 ……んじゃ。

天城 ハ？

萌愛 (スマホを出してスマホに熱中する)

天城 (それを見て、微笑みをどうして良いか迷い、ふっと元の顔に戻る)

萌愛 (スマホをいじる)

天城 (ちよつと自問自答する)

萌愛 ……木曜日ってさ。

天城 ん？

萌愛 木曜日って、ちよつとかわいそうだよね？…あのさ、水曜日が一週間のうちの真ん中じゃない？

火曜日は火。ファイヤー！って感じ。月曜日は週の初めだががんばるぞって感じだし、土曜日日曜日は週末のお休み。

金曜日って金だよ、ゴールド、キンキラキン。なのに、もく…木って。なんか…なんにも無いよね。

インパクトが。

天城 ああ、確かに…ちよつと印象弱いですね。木曜日に誰かと会う約束なんかすると、つい忘れてしまいうるようになります。

萌愛 ……お兄さんさ。

天城 はい？

萌愛 毎週木曜日に、なんかあるの？

天城 なんですか？

萌愛 いつも木曜日のこの時間にここにいるから。

天城 イヤいやいや、毎週木曜日にここに来るとは限らないでしょう？ 昨日も来てたかもしれないし…

萌愛 昨日はいなかったじゃん。アタシこの時間にここ来てたよ。

天城 じゃあ、一昨日も来てたとか…

萌愛 (さえぎって)一昨日もいなかった。

天城 ……

萌愛 なんか嫌な事でもあんの？ 木曜日に。

天城 実は…オレ…付き合っているカノジョがいるんですヨ。

萌愛 へー。いるんだ。

天城 俺達・・・マア仲はいい方じゃないか、と思うよ。

でね、そのカノジョが・・・仕事が毎週木曜日に休みなんです。その他は不定期で、月曜日とか土曜日とか休み
なんだけど、毎週木曜日の休みってのは必ず決まってて・・・

萌愛 それで、毎週木曜日に会うとか？

天城 そう！ ほら、去年政府が公表した「コロナウィルス感染予防の為の法令」ってあるじゃない？ 「婚姻前の男女

もしくは同性の恋愛対象者との接触は基本的に週一度までとする」ってヤツ。知ってる？

萌愛 もちろん。コロナを社会に広げないように、会うとキスやアレコレしちゃって濃厚接触してしまうカップルはウィル
スを運んでしまう。だから、ラブラブカップルが会うのは一周間に1回だけ。っていうのでしょ？

天城 そうそう。あれが始まって、週一度しか会えなくなったから、ウチらは、彼女が休みの木曜日にオレの仕事が終わっ
たら待ち合わせして会うってことにしたんだけど・・・なんかね。最近ゆううつで。

萌愛 そっかー・・・なんで？

天城　なんでなんだろう・・・毎週一回、必ずこの日に逢いますよ。って・・・なんかね？

萌愛　倦怠期ってヤツ？

天城　いやそういうわけでもないと思うんだけど・・・オレさ、営業で外回りやってるんです。で、木曜日になって外回ってると「あー今日は仕事終わりでアイツと会うんだ・・・」ってなんか・・・会いたくないってわけじゃないんだけど、会って向こうが楽しくなるように気を使って過ごさないといけないのかあと思っちゃって・・・
なんかゴメンなさいね。こんな話して。

萌愛　ふーん・・・そっかー、じゃあ楽しくないんだ。カノジヨと会っても。

天城　だからそういうわけじゃないんだよ。カノジヨ・・・癖があつてさ、こう、イライラしてくると、こうやって親指の爪を噛みだすの。(仕草をする)こうやって。オマエ徳川家康かよ？って。

萌愛　エ？　なに？

天城　徳川家康だよ。知らない？　ほら、関ヶ原の戦いで勝って、江戸幕府ひらいた。

萌愛　セキガハラ？？　エドって、昔の？

天城 ああごめん。知らなきゃいいんだよ。その徳川家康って人が、不安になるとこうやって爪を噛むのが癖だったの。

萌愛 ふーん・・・

天城 なんかそういう所かわいくて。だから、カノジヨの事嫌いじゃないんだよ。そりゃ好きだよ、付き合ってたんだから。

でもね・・・なんか・・・

萌愛 なんかよくわかんないけど・・・大変なんだね。

天城 大変・・・なのかな？ よくわからないや。

萌愛 (急に冷静に)交際している男女にアンケート。自分たちは倦怠期だと思いますか？倦怠期だと思う。29%。

時々倦怠期だと思う。38%。合計約70%が倦怠期だと回答。

天城 へ？

萌愛 そんなじゃあさ、アタシが、女子の目線から、アドバイスしてあげるよ。

天城 アドバイス？

萌愛 そう。例えば、どんな時に「めんどくせーな」って思う？

天城 どんな時か・・・今ちょっと思い出せないな。

萌愛 そっか・・・じゃあ今日の夜会うんでしょ？ その会ってる時に「あオレこういう時にたリーなって思ってたんな」とか覚えといて、また来週の木曜日にここでアタシに教えてよ。

天城 エ？ じゃあ・・・

萌愛 次の木曜日も、どうせまたゆううつな顔してここにいるんでしょ？

天城 あ、ああ・・・そうだね。じゃあ・・・来週、アドバイスしてくれる？

萌愛 いいよいいよ。マアひまだし。

天城 そう？ じゃあ、よろしくお願いします。

萌愛 (敬礼して)よろしくー！。

天城 来週の木曜日。

萌愛 うん。

天城 絶対ですよ。絶対来るんで。

萌愛 はい。

天城 じゃあ、今日は・・・これで。

萌愛 はい。じゃあネー。

天城、下手に去る。萌愛、またスマホに集中する。

F・O

第三幕

翌週の木曜日。

上手ベンチに萌愛が座っている。

下手ベンチに杉本葉奈すぎもとかなな(25)が座っている。

葉奈 ……そういうわけでした、天城は昨日急に出張で名古屋へ行ってくれとなってしまって、

今日ここに來ることができなくなりました。

萌愛 ハア……

葉奈 そちら様と今日ここで会うお約束をしていたのですが、そういうわけで行けなくなつた。そちら様の

名前も連絡先も知らないので、連絡の取りようがない。だから本当に悪いが私に行つて説明してくれないか。

と頼まれて……

萌愛 はあ・・・ハア。

葉奈 あの失礼ですが、天城とどういったご関係でしょうか？

萌愛 あの人、天城さんって言うんだ？ 下の名前は？

葉奈 (気を取り直し)あまぎ きょういちろう ですが？

萌愛 へー・・・京一郎？ なんかそんな感じしないね？

葉奈 名前も知らないお知り合いなんですか？

萌愛 だって名前教えてくれなかったもの。

葉奈 マ！(爪を噛みだす)

萌愛 ……ア、江戸時代？

葉奈 はい？

萌愛 アなんでもないなんでもない。

葉奈 もう一度お尋ねしますけど、天城とどういったご関係で？

萌愛 関係って言っても・・・この公園で二週間くらい前に会っただけ。で・・・マックおごってもらった。

葉奈 おごった？(また爪を噛みだす)

萌愛 そんな、踏み入った関係とかはないけど・・・信じないよね？

葉奈 (激しく爪を噛む)

萌愛 カノジョさん・・・だよな？ あの人、あなたの事好きだって言ってるのろけてたよ。

葉奈 (爪を噛むのをやめる)

萌愛 そんな人がアタシと・・・エッチとか？

葉奈 (激しく爪を噛む)

萌愛 あの人と、毎週木曜日に逢ってるんでしょ？

葉奈 なんでそんなこと知ってるんですか？

萌愛 だって教えてくれたもの。

葉奈 そんなことまで・・・

萌愛 あのを、あの天城って人？ あなたの事は好きなんだけど、ちょっと一緒にいると疲れちゃうみたい。

だから・・・

葉奈 だから？

萌愛 ・・・・うーん、どうすればいいかわかんないや。マいいわ。それが分かっただけでももうけもんじゃない？

葉奈 (ここでお礼を言うべきか強い態度でいるべきか分からず悔しいような微妙な表情)・・・

萌愛 (冷静に)交際している男女にアンケート。交際相手が浮気すると思いますか？ 思う。女性66%。男性29%。

葉奈 な、なんです？

萌愛 (そんな葉奈をじっと見る)

葉奈 (視線に気づき)・・・なんででしょうか？

萌愛 うわき。

葉奈 ハ？

萌愛 あの人、浮気してるかも。って思ってる？

葉奈 マア！ お、思ってますせん！（爪を噛む）

萌愛 でもアタシの目からはさ、あの天城さんって、そういう浮気とかしなさそうに見えるよ。

葉奈 そうですか・・・

萌愛 天城さんとあなたって、付き合ってたどのくらい？

葉奈 さ・・・三年くらいですけど・・・

萌愛 ああ・・・結構長いんだね。じゃあそうでもないのか？

葉奈 何がです？

萌愛 浮気する可能性もちよつとはあるかなあって・・・

葉奈 （爪を噛む）

萌愛 （あきららかにそれを楽しんでいる風な表情）

葉奈 （やっと平静を取り戻して爪を噛むのをやめる）

萌愛 男の・・・

葉奈 はい？

萌愛 男の下心。

葉奈 (爪を噛む)

萌愛 クックック(と笑う)

葉奈 (キッとにらむ)

萌愛 (笑いを納める)

葉奈 (何なの？という表情)

萌愛 男の肉欲。

葉奈 (爪を噛む)

萌愛 フッフ(と笑う)

葉奈 (キッとにらむ)

萌愛 (笑いを納める)

このころから明かりが暗くなっていく。

萌愛 男のやりたい気持ち。

葉奈 (爪を噛む)

萌愛 男の一晩の遊び。

葉奈 (爪を噛む)

萌愛 (声のみ)男のラブホ！

葉奈 (声のみ)キーッ！！

完全暗転。

第四幕

翌週の木曜日。

上手ベンチに萌愛が座っている。

下手ベンチに、天城と河合樹生かわいみきお(34)が座っている。

萌愛 ……で、誰？

天城 エ？

萌愛 その人、誰？

天城 ああ。この人、河合さん。中途採用で今週からうちの会社に入ったんだ。まだ新人だから、俺について一緒に回っているの。

河合 どうも、初めまして。河合と言います。今後ともよろしく…。(と名刺を出そうとする)

天城 河合さん、この人には名刺はいいから。

河合 でも名前覚えてもらわないと・・・

天城 この人、会社と関係ないから・・・

河合 ・・・・そうですか(と名刺入れをしまう)

萌愛 名刺もらってもネ。

天城 先週、すみませんね。急に出張入って・・・でき、カノジョと話して、どうだった？

萌愛 どうって言われても・・・話した。

天城 話して、それでどうだった？

萌愛 あ、爪噛んだ。

天城 ずうっと？

萌愛 かなりずっと。

天城 あー・・・そうか・・・

河合 あの一・・・

天城 なんですか？

河合 席、外しましょうか？

天城 ああいいんです。そういうアレじゃないんですから。

河合 けど何かちょっと訳ありな関係というか・・・

天城 この人とは全然そういうのじゃないんです。(萌愛に)じゃあ怒ってた？

萌愛 かなりね。

天城 あちゃー・・・ラインでいろいろ書いて送っても、返事がスタンプだけになってきたからさ、こりや変だなと

思ったけど。どうすればいいかなあ・・・

萌愛 さー。とりあえず、アタシとあなたの関係疑ってるみたいだから、その誤解を解かないと

どうしようもないんじゃない？

天城 けど、そこは何にもないってラインでさんざん書いて送ったんだよ。

萌愛　じゃあ直接逢って話せば？

天城　今日会おうとも送ったけど、それについては返事がないんだ。

萌愛　なら会えるにはどうすればいいか考えればいいんじゃないの？

天城　・・・でもさ、ラインでも何も返事無いんだよ。それでどうやって逢えば・・・

河合　ひよっとして、カノジョさんのお友達ですか？

天城　いや違うんです。ちょっとややこしくなるから話に入ってこないでくれますか？

河合　はあ。

萌愛　なら手紙？　僕は浮気してません信じてください潔白です！って書いて送るの。

天城　それでいつ届くの？

萌愛　二、三日後。

天城　それじゃ遅いな。

河合　速達にするって手もありますよ。あとは、直接カノジョさんの家のポストに入れるとか。

天城 いやいいんです。お願いですからちょっと静かにしててください。

萌愛 だいたいさ、もう正直に言うしかないんじゃないの？

天城 正直って？

河合 正直は大事ですよ。男と女の間には。

天城 だからいいんですから、ちょっと黙っててください。

萌愛 あなたがカノジョとのが不安でアタシに相談して、あの日アドバイスもらう約束していたって。

天城 しかしそんなこと・・・

萌愛 でも言わないと誤解されたままだよ。

河合 誤解を放っておくと、大変なことになりますよ。私も10年前に付き合ってたひと・・・

天城 あなたの元カノの話はいいんです。

河合 元カノじゃありません。元、元の恋人です。

天城 どうだっていいんです。

萌愛 とにかくさ、誤解をどうにかするためには、そこをちゃんと伝えないといけないんじゃないの？

河合 そうです。思い出すなあ、私が五年前・・・

天城 だからもうラインで送ったんだよ。

河合 五年前にですね、当時付き合いそうになった人で・・・

萌愛 ラインだけじゃ伝わらなかったんでしょ？

天城 こっちは必死に伝えようと思って打ったよ。

河合 その付き合いそうになった女の人というのが・・・

萌愛 必死だとか言うけどね、必ず死ぬって書いて必死って言うんだよ。そんな死にそうに打ったの？

どうせちょっと一時間くらい悩んだくらいでしょ。そんな簡単に必死って使わないでくれる？

どんな考えても悩んでも、伝わらなかったら意味無いの！

天城 ……

河合 そうですね。私もその五年前に・・・

天城 そんな言い方しなくたっていいじゃないか。こっちはまじめに悩んで・・・

萌愛 ラインでちょこちょこって文送って返事が来なかったくらいで、メソメソ悩んでんじゃないのよ！

伝えるってのはね、本当に難しいもんなの！

ラインだってメールだってリモートだってね、人と人が直接会って伝えることにはかなわないのよ！

天城 ……

河合 確かにそうです。私も五年前にお付き合いしようとしていた女性と・・・

萌愛 そしてアンタの何年前だかの報われない恋の話は、1ミリも興味なんか無い！

(急に冷静に)20代若者にアンケート。年上の人から聞かされる昔の話について。つまらない。37%。

時々つまらない。26%。約60%がつまらないと回答。(立ち上がって)帰るわ。

萌愛、上手に去る。

河合 (天城に目を向けて、一応大人の余裕のような態度取って)私が3年前に付き合いそうになった人は・・・

天城 (遮って)だまれ。

河合 ……はい。

暗転。

第五幕

翌週の木曜日。

上手のベンチには、結城ゆうき 知明ともあき（21）が座っている。

下手のベンチには、天城と河合が座っている。

天城 ……で、君は誰？

知明 ……結城 知明って言います。結城萌愛の弟です。

天城 ……弟さん、ですか？

知明 はい。姉がちよつと風邪ひいて来れないので、ここに行って天城さん？に逢って伝えてほしいって

頼まれました……

天城 あのコ、ゆうき もえっという名前なんだ。

河合 どうします？ お姉さんにお見舞いの品でも渡してもらいますか？

天城 なんですですか？

河合 そうすれば好印象になりますよ。

天城 だからあ・・・

知明 あの、すみません。姉がいろいろとご迷惑かけてるんじゃないですか？ 昔っから、思ったことポンポン言っちゃう

人なんで、トラブルばかり起こしてて。

天城 (気持ちと裏腹に) いや、そんなことはありませんよ。僕の悩み相談を聞いてくれたりして、

とっても助かってるんです。

河合 いやいや本当に。私達も女性の視点からの助言をもらって、本当に助かってるんですよ。

天城 (河合を引っ張りでしゃばるなどジェスチャー)

知明 そうですね。だったらいいんですけど・・・本当に空気が読めなくて、学校でもいじめられたり

も何度もして・・・

天城 そんな風には感じなかったけどなあ・・・

知明 ああ、姉から伝言があるんです。(とスマホを取り出して)「天城さん、ちゃんと江戸時代に直接行ってお話しできた?」ですって。

天城 ……

知明 江戸時代? これってタイムスリップってことですか? わけわかんないな。

天城 ……じゃあ、返事を伝えてもらっていいですか。今から言いますんで。

知明 あ、はい。

天城 「江戸時代に行ったけど、逢うことは出来なかった」って。

知明 はあ。じゃあ、今送りますね(スマホに入力する)。たぶん、寝込みながらスマホ見てると思うんで。

スマホが近くないとイライラして僕に当たって来るくらいだから。

天城 なにか分かります。

河合 江戸時代がカノジョってことですか?

天城 ……ええ。

河合 じゃあ・・・行ったけど、逢ってもらえなかったんですか？

天城 そうです。

河合 マズイじゃないですか！

天城 そんなこと分かってますよ！

河合 こんなパターン・・・私が2年前に当時のカノジョと起きたパターンと一緒にです。

知明 あ、やっぱり。送ったら、すぐ返事がきました。「もう一度江戸に行け。逢えるまで行け。絶対いけ」ですって。

天城 エー、また行くのか・・・

知明 また来た。えっと「どうせ行くのを嫌がるんでしょ？ でもピンチはチャンス。ここを乗り越えろ」って言ってます。

河合 天城さん、ここであきらめていいんですか？

天城 いや、河合さんには関係ないじゃないですか？

河合 関係ありますよ。ここまで来たら。まだ新人の部下ですが、応援させて頂きます。がんばってくださいよ。

天城 でも・・・もうがんばれないよ。今は。

知明 なるほど。行け行けと言われても無理な時もあるんですね。

天城 そりゃそうですよ。

知明 勉強になります。

天城 勉強？

知明 いえ、こっちのことです。

天城 (ため息をつく)なんでこうなっちゃうんだろうなあ・・・ねえ、俺達男てのは恋だの愛だので戸惑ってばかりですよ。ね。ほら、子供の頃は好きなコが出来てもどうしていいか分からないで泣かせちゃったりする。中学になって性欲ってのが出てくると、女の子と仲良くなりたいてって気持ちよりもヤリタイって気持ちが強くてうまくいかない。

高校や大学は・・・もう体は大人になってきたのに、よっぽどバイトとかしてないとお金が無い。

やっと社会に出て大人になった、だからもう大丈夫だろうと思ったら、すれ違いが起こる。結局、最初の子供の頃みたいに、やっぱり好きなコの気持ちをアレコレ考えて悩んでいる・・・いつになっても安心して恋愛できませんね。

河合 そうですね・・・うまくいきませんよね、男と女は。

天城 河合さんが言うと言得力ありますね。

河合 いいんですよ私の事は・・・あの、先日ですね、こんな記事を見ましたよ。90歳のおじいさんと80代のおばあさんがいまして、二人はお互いのパートナーとも死に別れていたの、気が合って男女の付き合いをすることになったそうです。したら、お婆さんの方が別の80代のおじいさんと仲良くなってしまったそうなんです。怒った90歳のおじいさんが、ナタを持ってお婆さんに詰め寄ってお婆さんが逃げて警察官が間に入るような小さな事件になったみたいなんです。で、そのおじいさんが怒ってお婆さんにこう言ったそうです。

「やっぱり若い男がいいのかー」って。若い男って・・・浮気相手も80代のじいさんですよ。

天城 結局、いくつになっても、この悩み終わらず。ですか・・・

河合 本当ですね。

天城 いや、ちょっと乱暴な話、自分の好きな女の子に拳銃でも向けて、「オレと付き合うか撃たれるかどっちがいいか今すぐ決めろ」って言いたいよね？

河合 (笑いながら)それはちよつと・・・

知明 (スマホを打ち込んでいる)

天城 あ、弟さん、このことはお姉さんに伝えないでいいからね。

知明 (スマホを打つ手を止めて)そうですか、分かりました。

天城 しかしさあ、こういう事で悩まないくらい、モテたいよね？

河合 モテたらモテたで大変なんじゃないですか？ 美人ばかりからモテればいいですけど、全然自分のタイプじゃない人からモテてばかりいたら、また大変ですよ。

天城 モテて大変か・・・言ってみたいなあ。

知明 「恋愛は最も分かりやすい承認欲求を満たすものである」

河合 ? なんですかそれ？

知明 いや、人間って他の人に「あなたは必要で大切な人ですよ」って認めてほしいわけじゃないですか。本能として。そのの最もわかりやすい行動が恋愛なんですって。

河合 確かに「あなたの全てを愛しています」てのは、マックスにその人を認めていますもんね。

天城 そうか・・・じゃあオレの今の状況は「アタシを一番認めてると言ったのに他の女を一番にしようとしている」って思われてるのか・・・

河合 違うんだよって言えば言うほど言い訳に聞こえますよねえ・・・

天城 ああ、女ってめんどくさいなあ。

河合 それ言ったら、絶対「男の方がめんどくさい」って言い返されますよ。

天城 確かにそうだ。

河合 口と口の言い争いだと、男は女に勝てませんからね。

天城 あー、女と言い合って勝った記憶・・・無いなあ。全然ない。

天城と河合、おかしくなって笑うが、笑っているうちになぜか寂しくなってくる。

天城 さあ、仕事行こうか。

河合 ……そうですね。

天城 弟さん、すみませんね。わざわざ来てもらっちゃって。

知明 いいえ。僕の方もいいデータが取れましたので。

天城 え？

知明 いえ、なんでもないです。

河合 さ、行きましようか。

天城 そうですね。それじゃ。(頭を下げる)

河合 (頭を下げて)お姉さんに、お大事にとお伝えください。

知明 あ、ありがとうございます。

天城と河合、下手に去る。

知明　・・・どっちもめんどくせーな。

暗転

第六幕

翌週の木曜日。

上手ベンチに萌愛が座っている。萌愛はポシエットを持っている。

下手ベンチに天城と河合が座っている。

萌愛 この前はゴメンね。

天城 いえ。風邪は大丈夫なんですか？

萌愛 もう一週間前だから、大丈夫。ちょっと味覚がないけど。

二人 (ゲー！という表情)

萌愛 冗談よ。

天城 そうですか・・・

萌愛 んで？ カノジヨさんとは相変わらず・・・

河合 会えてないみたいですよ。

萌愛 あ、過去に失恋ばっかしてた人？

河合 その覚え方はどうかと思いますけど・・・そうです。

天城 もうさ・・・正直、難しいのかなあって思ってるんだ。何度も逢いに行っても逢ってくれないし、

何度電話かけても出ない。ラインやメールも返事無し。こりゃ完全に嫌われたのになって・・・

河合 私も励ましてるんですけど、最近こんな調子なんですよ。

萌愛 そうなっちゃったのか・・・

天城 いろいろありがとうね。結城、萌愛さん。

萌愛 ……木曜日ってさ。

天城 ハ？

萌愛 木曜日ってやっぱりちょっと悲しいよね。一週間の中で一番目立たないで。

でもさ、やっぱり木曜日って無きやいけないんだよね？

天城　・・・そりゃ、木曜日が無いと、一週間が6日しか無くなっちゃうから。

萌愛　ううん、そうじゃなくてさ・・・目立たない木曜日。

でも、例えば、金曜日からすると、キンキンゴールド！って目立っている自分より、隣でひっそりと静かにいる木曜日の方がうらやましいと思ってるかもしれない。

「ああ、アタシもこんなキンキラを外して穏やかな木になってみたい」って。

天城　・・・ひよっとして、金曜日が萌愛さんってことですか？

萌愛　さあ、どうかなあ・・・

萌愛、立ち上がり、天城の背後まで歩いてくる。

そして、天城を後ろからそっと抱きしめる。

天城
・・・

萌愛
・・・どう？ あったかい？

天城
・・・はい。

河合
これ、どういう展開なんですか？

天城、悩みながらも、萌愛の手に自分の手を重ねようとゆっくりと動かす。

突然、「アー！」という叫び声。

上手から、葉奈が爪を噛みながら走って出てくる。

葉奈
もうダメ！ 見てらんない！

天城
なんでここに？

河合
エ？ この方、カノジョさんなんですか？

天城 (頷く)

河合 ……どうも初めまして。天城さんにお世話になっている河合と言います。

葉奈 そんなことどうでもいいから！ やっぱその女と浮気してるんでしょ？

天城 いやいやいや。

葉奈 だって抱き合ってたでしょ？

天城 見てたのか？

萌愛 あれ？ 気づかなかったの？

葉奈 先週は男の人と会ってたと思っただら…

天城 先週も見てたのか？

葉奈 見てたわよ。

天城 ちょっと待ってくれ。話を聞いてくれよ。

葉奈 だいたい男なんて、言い訳ばかりで、誠実なんて嘘ばっか！

萌愛 女は感情にまかせた言葉ばっか。

葉奈 (キッと萌愛を睨んでから天城に)もういいわ。終わりにしましょう。私達。

天城 ちよ、ちよっと待ってくれよ。

河合 あの・・・本当に誤解なんですよ。天城さんはあなたの事を本当に・・・

葉奈 ああもう聞きたくもない！

萌愛 (ポシエットから銃を出して天城に渡す)はい。

天城 (受け取り)あ、ありがとう。エー！！

一同、銃に注目する。

天城 こ、これは？

萌愛 知明から、天城さんが拳銃があったらうまくいくって言ってたって聞いたから。

天城 知明って弟さん？

萌愛 (頷く)

天城 伝えないでって言ったのに……

河合 どうやって手に入れたんですか？

萌愛 ネットの通販。お金振り込んだら駅のコインロッカーの鍵が送られてきて、それ開けたら、入ってた。

河合 本物ですか？

萌愛 わかんないけど、結構重いよ。ほら、カノジヨに銃を向けて言うんでしょ？

「オレと付き合うか撃たれるかどっちか選んで」って。

天城 いや、そんなこと……しないよ。

萌愛 ええ？ そういうのしたいって言ってたんだよね？

天城 それは、ほんの冗談で……

萌愛 エー？ 冗談？

天城 だからそんな……(葉奈に)しないよ。そんなこと。信じて。

萌愛 じゃあ、代わりにアタシが。(と、銃を取って栞奈に向けて構える)

栞奈 ……(爪を噛む)

河合 (スマホを出して)私、警察に電話します(萌愛に銃を向けられ)やっぱりやめます。(まだ向けられ)やめます。

(なおも向けられ)やめますってば!(ベンチに隠れる)

萌愛 (銃を栞奈に向けて)この人のこと許してもう一回やり直すか、アタシに撃たれるか、選んで。

栞奈 な、なんなのよアンタ!

萌愛 ちょっと聞いていい? あなたが怒ってるのって、この人の事思ってる? それとも、自分のプライド守るため?

栞奈 か、関係ないでしょ!

萌愛 関係ない、か・・・確かに関係ないし、ほっときゃ良かったけどね、アンタたちの事なんか。

でもね、関わっちゃったのよ。

栞奈 お、おせっかいすぎんよ! あんたのせいであんなにいろいろめっちゃめっちゃになったのに!

萌愛 (フツと笑う)

葉奈 な、なにがおかしいの？

萌愛 別に。

萌愛、また葉奈に銃口を向けて、葉奈は爪を噛む。

天城 二人の間に入り、銃口の前に立ちはだかる。

天城 お、オレが悪いんだから。葉奈は悪くない！ だからやめよう。もう。な？ オレのせいだ。

萌愛 何がオレのせいなの？ なんだかよく分からないけど全部自分のせいにして丸くおさめようとしてんの？

天城 ち、ちがう！

萌愛 じゃあなに？

天城 ……

萌愛 え？ なんなの？

天城 ……こいつを傷付けたり痛い思いをさせたくない。ただそれだけなんだ。

萌愛 こんな爪噛みの家康おんな、どうだっていいでしょ？

天城 違う！…爪を噛むけど、それがかわいいんだ。夜中に突然「パイナップル食べるう」って寝言を言うけど、そこがかわいいんだ。酔っ払うとすぐトイレで吐くけど、それがかわいいんだ。全部…愛おしいんだ。

葉奈 (爪を噛むのをやめて)きょうちゃん…

萌愛 バキューン！(と引き金を引く)

葉奈、天城、河合、ビクつとする。

萌愛 (銃をポシエットに戻して上手ベンチに戻りながら)ああ疲れた。(とスマホを出して集中する)

間。

天城、葉奈、河合、顔を見合わせ、誰からともなく、フフフと笑いだしてしまう。
どこかなごやかな笑いである。

河合　・・・天城さん。じゃあ、そろそろ仕事に戻りましょうか。

天城　・・・ああ、そうですね。

河合　駅まで行って、電車に乗らないと。

天城　そうか。次は・・・

河合　京葉商事に行くんですよね？

天城　そうでした。

葉奈　あの・・・私も途中まで一緒に行ってもいい？

天城　・・・いいよ。歩きながらちよつと話したいんだけど・・・

葉奈　（チラと河合を見る）

河合 大丈夫ですよ。私は少し離れて歩きますから。

葉奈 すみません。

河合 いえいえ。当然です。

天城 萌愛さん。じゃあ、また来週の木曜日に、ここで。

萌愛 (スマホをいじりながら)はい。

河合 私も来ますので。

萌愛 (スマホをいじりながら手を上げて)チーす。

葉奈、ペこりと萌愛に頭を下げる。

天城、葉奈、河合、下手に去る。

萌愛、しばらくそのままベンチに座ってスマホをいじっている。が、突然、なにかが起きて、ガクンと首を前に倒し、脱力する。

上手から知明が来る。

知明が立ったまま萌愛を少し眺めている。

携帯の着信音が鳴る。

知明（携帯を出て）はい？・・・ハイ・・・あー、お世話になってます。実験の方、だいたい終わりました。

・・・ええ、いいデータが集められましたよ。「人と人との間が広がっていく世の中に、

遠くなった二人を繋ぐのは、空気の読めないかき乱すような存在ではないか。その役割を担った人間型A-

で離れそうな二者の間を繋ぐ実験]長いですね。もっと気の利いた実験名は無かったのかな？ でも

上の方が人が考えるのってそういうものですか？・・・はい。まだ実用化の第一歩ですが・・・ええ。

そりゃそうですよ。空気を読めないかき乱す役なんて、誰もやりたくありませんよ。だからA-がやるんです。

・・・はい・・・プログラム？ 僕がほとんどやりましたが・・・はい。ありがとうございます。今回の天城さんと

葉奈さんの事で分かったデータを分析して、まとめておきます・・・次の実験？ 分かっています。もう対象者は

しぼってますので・・・ええ。それではまた。失礼します。

知明、携帯を切ると、萌愛の背後に回って何かを触る。

萌愛、スックと首を上げ、真正面をじっと見ている。

携帯の着信音が鳴る。

知明、携帯で話しながら、下手ベンチに座る。

知明 はい・・・ああ母さん。どうしたん？ 今？ 仕事中。ホラ、この間話したやん。

人間型Aーを使った実験の・・・そう。寺島さんとの・・・大丈夫よ。体の方は。

・・・うん・・・うん・・・分かってる。それより、Aーの写真送ったけど見てくれた？

すごいやろ？ エ？・・・似てる？ あのAーが？ 誰に？・・・姉さんに？ いや、そうかなあ・・・

ああ・・・ああ・・・そうやね、あの日も木曜日やったね・・・いや、大丈夫よ僕は。

もう乗り越えたよ姉さんの事は・・・ああ、そりゃ悲しかったけど。でもホンマにもう大丈夫やって。

うん・・・うん・・・そやね。分かった。じゃあまた電話するよ。母さんも気を付けて。

知明、電話を切る。そして、ため息を一つつく。

知明、萌愛の方を見つめる。萌愛も知明を見つめる。

知明　・・・じゃあそろそろ行くで。姉さん。

萌愛（冷静に）ハイ、了解しました。（にこやかになり）そやな。知明

知明、びっくりして萌愛を見る。にこやかに微笑む萌愛。

それを見て、知明もつられるように微笑む。

知明、何かを吹っ切るかのように立ち上がり、上手に去る。

萌愛、それを追いかけるように、立ち上がり、上手に去る。

暗転

(了)